

妙法蓮華經如来寿量品第十六

【現代語訳】

しやかむにぶつ

釈迦牟尼仏の真理と正しい教えを白蓮華に譬えたお経。

第十六章。釈迦牟尼仏の久遠くおんの寿命を解き明かした章。

じがとくぶつらい

しろうきようしよこうしゆ

むりようひやくせんまん

おくさいあそうぎ

1、自我得仏来 所經諸劫数 無量百千万 億載阿僧祇

【現代語訳】

1、私（釈迦牟尼仏）が、仏として悟りを得てより経過した時間は、百千万億・載・阿僧祇という、計り知れないほどの時間（久遠）である。

・この文章によりお釈迦様の本来の姿である。久遠の本仏が説かれている。

じようせつぽげきようけ

むしゆうおくしゆじよう

りようにゆうおぶつどう

にらいむりようこう

2、常説法教化 無数億衆生 令入於仏道 爾来無量劫

【現代語訳】

2、私は常に法を説いて、億の無数倍という多くの衆生を教化して、仏道に入らせてきた。そのようにしてこれまで、計り知れない程の時間が経過した。

いとしゆじようこ

ほうべんげんねほん

にじつふめつど

じようじゆうしせつぽう

3、為度衆生故 方便現涅槃 而実不滅度 常住此説法

【現代語訳】

3、衆生を仏の世界へ導くために、教化の手段として入滅の姿を現し

たが、実際には入滅していない。私は常にここに留まって法を説き続けているのである。

がじょうじゆうおし いしよじんづうりき りようてんどうしゆじよう すいごんにふけん
4、我常住於此 以諸神通力 令顛倒衆生 雖近而不見

【現代語訳】

4、私は常にここに留まっているが、さまざまな神通力によって、煩悩ぼんのうなどにより仏の真理に迷っている衆生には、近くにいても見ることが出来ないのである。

しゆうけんがめつど こうくようしやり げんかいてれんぼ にしようかつごうしん
5、衆見我滅度 広供養舍利 咸皆懷恋慕 而生渴仰心

【現代語訳】

5、多くの人々は私の入滅を見て、広い地域に於いて仏舎利ぶつしやり（お釈迦様の遺骨）を供養し、あらゆる人々が皆、私を恋したい慕うう心うやまを懐いて、敬うやまう心うやまを起こす。

しゆじようきしんぶく しちじきいにゆうなん いっしんよつけんぶつ
6、衆生既信伏 質直意柔軟 一心欲見仏
ふじしやくしんみよう じがぎゆしゆうそう くしゆつりようじゆうせん
不自惜身命 時我及衆僧 俱出靈鷲山

【現代語訳】

6、衆生はすでに私の導きじゆうなんを信じ、素直で柔じゆうなん軟な心おをめぐらせ、一心に仏を見立てまつりおたいと願って、自ら命おをも惜おしまないおのである。その時にこそ、私と仏道りようじゆうせんを求める者達は、ともに靈鷲山りようじゆうせんに姿を現すのである。

りようじゆうせん
・靈鷲山・・・妙法蓮華経が説かれた場所。仏の世界を現す。

がじごしゆじよう　じようざいしふめつ　いほうべんりきこ　げんうめつふめつ
 7、我時語衆生　常在此不滅　以方便力故　現有滅不滅
 よこくうしゆじよう　くぎようしんぎようしや　がぶおひちゆう　いせつむじようほう
 余国有衆生　恭敬信樂者　我復於彼中　為説無上法

【現代語訳】

7、私は、その時に衆生に語る。私は常にここにあつて入滅にゆうめつすることはない。教化の手段としての神通力により、入滅あらわを現したり、また入滅しない姿を現すのである。すなわち、他の国土の衆生で、恭うやうやしく敬うやまい信じ願うものがいたならば、私は、その国土において、彼らにこの上ない法華經を説くのである。

にようとうふもんし　たんにがめつど　がけんしよしゆじよう　もつざいおくうかい
 8、汝等不聞此　但謂我滅度　我見諸衆生　没在於苦海

【現代語訳】

8、増上慢ぞうじようまんの者は、この私の言葉を聞かないで、ただ私が入滅ぼつしたと思ひ込んでいる。私がさまざまな衆生を見ると、彼らは苦の海に没してしまっている。

・増上慢ぞうじようまんの者・・・妙法蓮華經以前に説かれたお経をよりどころとして悟りを得たと思っている者

こふいげんしん　りようごしよかつごう　いんごしんれんぼ　ないしゆつせいせつほう
 9、故不為現身　令其生渴仰　因其心恋慕　乃出為説法

【現代語訳】

9、そのために、私は姿を現さない、そのことによって彼らに、あこがれ慕したう心を起こさせるのである。そして、彼らの心に私のことを恋慕う心が生じるようになり、はじめて私は出現して法を説くのである。。

じんつうりきによぜ おあそうぎこう じようざいりようじゆせん ぎゆうよしよじゆうしよ
10、神通力如是 於阿僧祇劫 常在靈鷲山 及余諸住処

【現代語訳】

10、私（釈尊）の神通力はこのとおりである。阿僧祇劫あそうぎこうという無限の時間にわたって、私は常に靈鷲山りようじゆせんや他のさまざまな所において法を説くのである。

しゆじよけんこうじん だいかしよしろうじ がしどあんのん てんにんじゆうじゆうまん
11、衆生見劫尽 大火所焼時 我此土安穩 天人常充満

【現代語訳】

11、衆生がこの世の終末を迎え、大火に世界が焼かれると見える時にも、私のこの国土は安穩であって、天の神々や人々が常に満ちあふれている。

おんりんしやうどうかく しゆうじゆうほうしやうごん ほうじゆうたけか しゆじやうしよゆうらく
12、園林諸堂閣 種種宝莊嚴 宝樹多華果 衆生所遊樂

【現代語訳】

12、実り豊かな園の樹林や多くの堂閣は、種種の宝によって嚴おごそかに飾られ、宝物で作られた樹には花が咲きほこり、果実が多く実っていて、衆生が遊樂する場所である。

しやうてんきやくてんく じようさしゆうぎがく うまんだらけ さんぶつぎゆうだいしゆ
13、諸天撃天鼓 常作衆伎樂 雨曼陀羅華 散仏及大衆

【現代語訳】

13、天の神々は天上界の鼓つづみを打ち、常に諸々の音楽かなを奏でて、曼陀羅華の花を降らして、仏や大勢の会衆の上に花を散ふらしている。

がじょうどふき にしゅうけんしやうじん うふしよくうのう によぜしつじゆうまん
14、我浄土不毀 而衆見焼尽 憂怖諸苦惱 如是悉充滿

【現代語訳】

14、私の浄らかな仏国土は壊れることはない。しかし、人々はこの国土が大火により焼け尽くされて、憂^ういや恐怖さまざまな苦惱などが充滿していると見ている。

15、是諸罪衆生 以悪業因縁 過阿僧祇劫 不聞三宝名

【現代語訳】

15、これら悪い業（因縁）の多い衆生は、悪業の報^{むく}いにより、阿僧祇劫という長い時間が過ぎても、仏・法・僧の三宝の名すら聞くことができない。

- ・ 仏^{ぶつ}・・・久遠の本仏・お釈迦様（釈尊）
- ・ 法^{ほう}・・・お釈迦様の教え・法華経（妙法蓮華経）
- ・ 僧^{そう}・・・お釈迦様の教えを弘^{ひろ}める僧侶（日蓮聖人・天台大師など）

しょうしゅうくどく にゆうわしちじきしや そつかいけんがしん ざいしにせつぼう
16、諸有修功德 柔和質直者 則皆見我身 在此而説法

【現代語訳】

16、いろいろな功德を積み、柔和で素直な人々は誰でもみな、私（釈尊）の身体がここに現されて法を説くのを見る。

- ・ 功德を積み穏やかに正直に生きる人には、お釈迦様が正しい方向に導いて下さり、善い結果を得ることができることを示している。

わくじいししゅう せつぶつじゆむりよう くないけんぶつしや いせつぶつなんち
17、或時為此衆 説仏寿無量 久乃見仏者 為説仏難値

【現代語訳】

17、ある時には、この人々のために、仏の寿命は計り知れないと説き、また長い間にわたり、仏を見ようとしなない者に対しては、仏に出遭うことは困難であると説くのである。

がちりきによぜ えこうしようむりよう じゆみようむしゆうこう くしゆうごうしようとく
18、我智力如是 慧光照無量 寿命無数劫 久修業所得

【現代語訳】

18、私（仏）の智慧の力は、このようであり、その智慧の光が照らすところは計り知れない。また、私の寿命は無数の時間の長さである。その寿命と智慧を得る為には、長い間修行して得たところなのである。

にようとううちしや もつとしししようぎ どうだんりようようじん ぶつごじつぶこ
19、汝等有智者 勿於此生疑 当断令永尽 仏語実不虛

【現代語訳】

19、あなた達のように智慧の有る者は、このことに疑念を生じてはならない。この疑念を断じて永遠に無くすべきである。仏の言葉は真実であって偽りはない。

によいぜほうべん いじおしこ じつざいにごんし むのうせつこうもう
20、如医善方便 為治狂子故 实在而言死 無能説虚妄
がやくいせつぶ くごうくげんしや
我亦為世父 救諸苦患者

【現代語訳】

20、心の病を治す医師である父（仏）は、教化の手段として、心を惑^{まど}わせてしまった子供（衆生）に良薬を飲ませるために、実際には生きているのに死んでしまったと言って良薬を飲ませ、あらゆる苦しみから救うのである。

21、いほんぶてんどう 為凡夫顛倒 じつざいにごんし 實在而言滅

【現代語訳】

21、衆生は心が迷い苦しんでいるので、真実の覚り教えに導き続けているのだが、あえて入滅すると私は言うのである。

22、いじようけんがこ 以常見我故 にしようきようしん 而生憍恣心 ほういつちやくごよく 放逸著五欲 だおあくどうちゆう 墮於惡道中

【現代語訳】

22、常に私を見ているために反って、^{おご}驕りの心が生じて勝手気ままに欲望にとらわれ、惡道に墮ち込んでしまうことになるのである。

23、がしようちしゆうじよう 我常知衆生 ぎようどうふぎようどう 行道不行道 ずいおうしよかど 随応所可度 いせつしゆじゆうほう 為説種種法

【現代語訳】

23、私は常に衆生が仏の道を求め続けているかいないかを見極め、仏の道を求める者の能力に応じて教えを説き、仏の世界へ導く為に法を説くのである。

24、まいじさぜんねん 每自作是念 いがりようしゆうじよう 以何令衆生 とくにゆうむじようどう 得入無上道 そくじようじゆうぶつしん 速成就仏身

【現代語訳】

24、私はいつでもこのように念じ続けている。どのような方法により衆生を教化して、覚りの境地に導き入れ、仏に成れるかと。